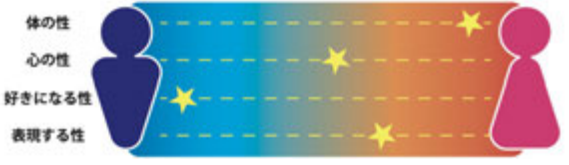
あかるさかおるのスケッチブック No.11

バックナンバーは、町ホームページでまとめて読むことができます▶
https://x.gd/8ogrM

“私もあなたもグラデーション”

白か黒か、右か左か、正義か悪か、男か女か…世の中はいかんせん、二項対立によって分断を強いているように感じる今日この頃。ところであなたは、性別っていくつあると思いますか？男と女でしょ？と思った皆さん、実は性のあり方は無数のグラデーションなんだそうですよ。

性は4つの要素の組み合わせからできていると言われます。①体の性(生物学的特徴によるもの)、②心の性(自分の性別をどう認識するか)、③好きになる性(どの性別に惹(ひ)かれるか)、④表現する性(服装、口調、しぐさなど)です。



それぞれの要素は人によってその程度やパターンが異なり、ハッキリ区切ることはできないため、イラストのようにグラデーションで表されます。例えば「表現する性」をとっても、自分は女性だと認識している人が皆フェミニンなスカートを着たいわけではないし、メイクが好きな男性もいれば、ほとんどしない女性もいます。

このように、一つ一つの要素に濃淡があり、さらにこれらの要素の組み合わせで人の性は成り立っている。つまりそれは百人百様で、自分と全く同じ性別の人はいないとさえ言えます。

誰しもグラデーションのどこかにいる唯一無二の存在。そう考えると、多数派も少数派もない、ただのあなたと私として、相手を受け入れられる気がしませんか。

【このコラムを書いている人】
菅原(すがわら)　明香(さやか)（あかるさかおる）
ナリワイ ALLIANCE(アライアンス) 代表
https://lit.link/akarusakaoru

あかるさかおるのスケッチブック No.12

【このコラムを書いている人】
菅原（すがわら） 明香（さやか）（あかるさかおる）
ナリワイ ALLIANCE（アライアンス） 代表

“わたしのしごと、わたしごと まちのことまで、わたしごと”

「わたしごと万博in SHONAI」が酒田市で開催され、私は運営側として関わらせていただきました。このイベントは、「好き・得意」×「地域に良いこと」でわたしごとの仕事を作る、「ナリワイ・3ビズ」と呼ばれる働き方の実践者が全国から集まり、その活動を紹介するものです。

埼玉県を中心に400人以上の仕事づくりをサポートしてきた「わたしごとJAPAN」共同代表の矢口真紀さんによるトークショーや、わたしごとのタネを見つけるアイデアセッション、公務員や公民連携を模索する方のための働き方を考えるプログラムなどが開かれ、約100人が参加しました。また「わたしごと見本市」として各地域の実践紹介ブースも並び、にぎわっていました。

自分のわくわくを起点にした小さな仕事づくりが、自分を変え、周りを巻き込み、地域をポジティブに変えていくこと。消費者でしかなかった人たちがそれぞれプレイヤーに変わると、顔の見える経済が回り出し、地域に小銭と笑顔が循環していくこと。仲間が増えることは、セーフティネットにもなること。そんなことを再認識し、また庄内のご飯が美味しいと皆さんに感激してもらえて（笑）、感無量の1日でした。

9月29日(日)「わたしごと万博in SHONAI」@東北公益文科大学

あかるさかおるのスケッチブック No.13

バックナンバーは、町ホームページでまとめて読むことができます▶

“夢の翼”

先日あるイベントで、親子で講演を聴きました。夢と努力の大切さを、夢を叶えた有名人の名言をいくつも交えながら、子どもにもわかりやすく楽しくお話しされていて、感動しました。親として一つ気に掛かったことは、お話に出てきた人物が全員男性だったことです。もし一人でも女性が含まれていたなら、女の子もそこにいた男の子と同じくらい、自分事として夢の実現を思い描けるような気がしたのです。

思い返せば、私もさまざまな学びの場で、同じような経験をしてきました。例えば、小学生の頃に読んだ「世界の偉人伝」シリーズの中に、女性は数えるほどしか出てきませんでした(その一人がキュリー夫人です。今思えば「キュリーさんの妻」という肩書き表記なのですよね。マリー・キュリーとしてほしかったな)。

映画の世界でも主人公は男性の割合が高いことが知られていますが、実は絵本の主人公も圧倒的に男の子が多いこと(男4：女1)が分かっています。さらに、主人公が男の子の場合は冒険心をくすぐるものが多いのですが、女の子が主体的に行動するお話となると、グッと少なくなります。(2021年に調査報告あり)

物語の主人公は男の子である。その隠れたメッセージは、子どもたちの成長にどんな影響を与えるのでしょう。女の子も男の子と同じくらい、のびのびと翼を広げ、冒険の世界に飛び立ってほしい。私たち大人が、意識的にアシストする必要を感じています。

【このコラムを書いている人】

菅原（すがわら） 明香（さやか）（あかるさかおる）

ナリワイ ALLIANCE（アライアンス） 代表

通訳ガイドやアート活動、コミュニティづくりなども行う複業アーティスト。三川町在住、2児の母。

あかるさかおるのスケッチブック No.14

バックナンバーは、町ホームページでまとめて読むことができます▶

“心の親戚”

『子育てするなら三川町』のはずが、移住してきたパパ・ママからは「ここは都会より子育てしにくいかも…」という話も実は聞きます。自然もある、食べ物も美味しい、でも…。

その理由の一つは、田舎であればあるほど、従来の子育て、つまり地縁・血縁に頼る子育てが当たり前だからなのかもしれません。我が家も、おじいちゃんおばあちゃんに大いに助けてもらっていますし、ご近所の皆さんにも温かく見守ってもらっています。それは本当にありがたく、素晴らしく、田舎の子育ての醍醐味（だいごみ）だと思っています。でもそれはあくまでも、そこに地縁・血縁がある場合のこと。3世代同居率が日本一の山形県でも、そうではない家庭もたくさんあるんですよね。父母・ひとり親だけで子育てしている世帯は、祖父母パワーありきで語られている子育てと支援の現状に、合わせざるを得ません。

「今の若い人たちはしがらみに縛られたくないのでしょ？口も手も出さない方が賢明」という声もよく聞きますが、果たしてそうなのでしょうか。子育てには手がかかります。いくら「個」の時代とは言え、父親・母親だけが全てを背負うのは大変です。それに、さまざまな人に愛された経験こそが、人をつくるのではないでしょうか。

これからの田舎に必要なのは、地縁・血縁だけによらないコミュニティーづくりなのではないかな。そう、「心の親戚」というくらいの距離感で接することができる関係が心地よい気がします。おじさんおばさんになった気分で温かく、ちょっとおせっかいしてみませんか。

【このコラムを書いている人】

菅原（すがわら）　明香（さやか）（あかるさかおる）

ナリワイ ALLIANCE（アライアンス） 代表

通訳ガイドやアート活動、コミュニティづくりなども行う複業アーティスト。三川町在住、2児の母。